

平成 24 年度基礎・基本定着状況調査結果と今後の取組について

今年度 6 月に行われた基礎・基本定着状況調査について報告します。これらの調査は、5 年生を対象に、4 年生までの国語・算数の学習内容の定着状況と、学習と生活に関するアンケートが行われました。その調査結果からみた本校児童の学力状況等の課題や今後の取組についてお知らせします。

1 通過率 【 国語科 】 【 算数科 】

	全体	指導領域別の通過率				全体	指導領域別の通過率			
		聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項		数と計算	量と測定	図形	数量関係
広島県	75.8	77.7	56.4	80.7	78.3	75.0	84.6	73.7	58.7	72.7
広島市	74.1	75.1	55.9	79.9	75.9	72.9	83.5	71.0	55.0	70.7
己斐小	76.6	83.0	56.7	80.4	78.5	73.2	81.2	72.6	57.8	71.9

2 国語科について

課題

- (1) 「書くこと」について
下書きと清書との相違点を見付けたり、一文を二文に分けて書き直すことなど、文章を推敲する力が不足している。
はがきの表書きの書き方について、文章の構成をする力が不足している。
- (2) 「読むこと」について
文学教材において、書かれている事柄に即して、登場人物の気持ちを想像するしながら読む力が不足している。
説明文において、段落相互の関係を読み取る力が不足している。
- (3) 「言語事項」について
第 4 学年の漢字やローマ字を書く力が不足している。

改善のための具体的な取組

- (1) 「書くこと」について
読書感想文などで下書きと清書を比較させ、どこがどのように変わっているのか、アンダーラインを引かせたり、書き込みをさせたりする。また、一文を「読点」や「～ので」という言葉に着目させ二文に分けるようにさせる。
案内状や年賀状など、はがきを書く学習を取り入れる。
- (2) 「読むこと」について
物語全体の大まかな展開(起承転結)やクライマックス(山場)をとらえさせ、登場人物の言動をまとめて、説明する学習を取り入れる。
「始め、中、終わり」「問いかけ」「考え」など、文章の構成に気を付けて読ませる。
「言語事項」について
日常使われている(目にする)簡単な単語(地名、人名、物等)について読み・書きができるようにさせる。そのためには、ローマ字表記が添えられた案内板やパンフレットを見せたり、コンピュータの操作ではローマ字変換にして文字を打たせたりするなどの工夫やミニプリントを活用する。

3 算数科について

課題

- (1) 「数と計算」について
小数の減法を正しく計算したり分数を使って表したりする力が弱い。
- (2) 「量と測定」について
時間を正しく読み取る力が弱い。
複合図形の面積を求める力が弱い。
- (3) 図形について
ひし形や正三角形の定義を理解する力が弱い。
- (4) 数量関係について
四則の混合の計算をする力が弱い。
伴って変わる数量の関係式を表す力が弱い。

改善のための具体的な取組

- (1) 数と計算について
小数の減法では位を揃えて計算することを定着させたり、分母は 1 がいくつに分けられている

- かに着目させたりする。
- (2) 量と測定について
時間を求める際に、筆算で計算できるようにさせる。
図形の、出っ張った部分をへこんだ部分に着目させ面積が同じであることに気付かせる。
- (3) 図形について
実際に作図させ形や正三角形の定義を理解させる。
- (4) 数量関係について
乗法、除法を加法、減法より先に計算することを定着させる。
伴って変わる数量の関係式では、表から比例の関係にあることや定数に気付かせ、比例の公式が使えるようにさせる。

各学年の重点的指導

学年	国語科	算数科
1	<ul style="list-style-type: none"> 音読や本の読み聞かせをして、お話の楽しさを感じさせる。 平仮名・片仮名の正しく覚えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 時計や長さなど、実生活と結び付け読み方や単位の覚え方を教えていく。 ブロック操作や絵や図で表すことによって、問題場면을正しく捉えさせる。
2	<ul style="list-style-type: none"> 時間や事柄の順序に気を付けながら概要を読み取らせる。 語彙習得のために読書量を増やす。 書き順に気を付けさせ、漢字の繰り返し学習させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 積み木や形並べをして、図形の内容を理解させ、図形の定義を説明する力・文章表現力の基礎を定着させる。 長さやかさの量感を実生活と結び付けてつかませる。 九九を暗唱させ、確実に覚えさせる。
3	<ul style="list-style-type: none"> 中心となる語や文を書き抜く、場面の移り変わりに注意して読ませる。 国語辞典を引く習慣を身に付けさせる 漢字、ローマ字の繰り返し学習をさせる。(己斐タイムの活用) 	<ul style="list-style-type: none"> 時間や時刻の求め方や量や単位の大きさは、実生活と関連させ、感覚を養わせる。 減法、乗法を使って除法ができることを理解させ、確実に定着させる。
4	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の気持ちの変化に気を付けながら読ませる。手紙や葉書を書く経験をさせる。 漢字、ローマ字の繰り返し学習をさせる。(己斐タイムの活用) 	<ul style="list-style-type: none"> 生活と関連させた算数的な活動や操作を取り入れ、重さ・かさ・面積などの量感を実感させたり、予想と実測を比較させ大きさを身に付けさせる。
5	<ul style="list-style-type: none"> 要旨をまとめたり、登場人物相互の関係や心情を考え、場面をまとめさせる。 新聞を活用する。説明文や意見文の書き方に慣れさせ、相違点に気付かせる。 パソコンではローマ字入力をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数の問題で問われていることを正しく理解し解くために、線を引く・囲む、絵や図、表にするなどの活動をさせる。
6	<ul style="list-style-type: none"> 事実と感想、意見に分け、自分の考えを明確にしながらか読ませる。 複数の新聞を読み比べ、根拠を明らかにして自分の考えを明確にさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉、数、式、図、数直線、表、グラフなどを用いて考え、説明するの活動をさせる。

4 学習・生活に関する意識・実態アンケート

(1) 生活

「自分にはよいところがある」の肯定的な評価が 66.9 % に対し「自分のよさはまわりの人から認められている」の肯定的な評価が 48.3 % であった。自分の言動に自信がもてなかったり、まわりの方の反応を気にしながら「あまりよく思われていない」と受け止めていたりする児童が多い。ライフスキル教育や協同学習、話し合い活動、野外活動などの行事から「自己肯定感」「自己存在感」「自己有用感」を育てていきたい。学習や生活の中で、友達との関わりを通してお互いのよさに気付かせたい。

「将来の夢や目標をもっている」の肯定的な評価が 90.7 % であった。これからも、夢や目標をもって前向きに努力していくことの大切さを教えていきたい。

(2) 学習

「1週間の読書時間の合計」で読書をしていないと答えた割合が 17.5 % であった。おすすめの本や感想を紹介したり、学校・区民図書館などを利用して読書量を増やしたい。

「学校がある日の勉強時間」で勉強していないと答えた割合が 6.1 %、30分間以下と答えた割合が 9.2 % であった。1時間は勉強するよう、宿題の内容や自主勉強の仕方や内容を考え指導していきたい。